

13-5 資本主義的蓄積の法則が実際に表わしているのは、……

「だから、一つの自然法則にまで神秘化されている資本主義的蓄積の法則が実際に表わしているのは、ただ、資本関係の不断の再生産と絶えず拡大される規模でのその再生産とに重大な脅威を与えるおそれのあるような労働の搾取度の低下や、またそのような労働の価格の上昇は、すべて、資本主義的蓄積の本性によって排除されている、ということではないのである。そこでは労働者が現存の価値の増殖欲求のために存在するのであって、その反対に対象的な富が労働者の発展欲求のために存在するのではないという生産様式では、そうであるよりほかはないのである。人間は、宗教では自分の頭の作り物に支配されるが、同様に資本主義的生産では自分の手の作り物に支配されるのである。」

(大月版『資本論』② P810B5-811F2)

※全文は〈賃金〉「12-11資本蓄積と賃金率は」に収録、本文は〈資本主義社会での事物の認識〉「9-2人間は、宗教では自分の頭の作り物に……」と同一文。